新設「表現探究コース」の学び

表現探究コース担任　川下　優一

今年度、普通科「表現探究コース」1期生の生徒40名が入学しました。「ひょうたん」という愛称で呼ばれているこのコースは、言語能力や情報活用能力など、言語による表現やICTを活用した映像メディア表現を活用した「伝える力」を身に付けることで、これからの社会に求められる創造性豊かな人材を育成することを目的としています。このコース独自の教育課程として学校設定科目「表現探究Ⅰ」を設け、グループワークを中心とした授業を展開し、生徒は日々楽しく学習しています。

今年度は「伝える力」の基礎を培うために、ICTや新聞を活用した取組を中心に行っています。登校再開後の授業では、プレゼンテーションソフトを用いて自己紹介を行い、ICT機器の活用法やコミュニケーション能力の基礎を体得しました。その後は、毎日新聞社発行の『記者トレ』を活用し、取材から記事になるまでの新聞のノウハウを学びました。そこで得た知見を活かして、夏期休業中に中学校の恩師へ取材を行い、10月には毎日新聞大阪本社へ見学、11月には香芝市長にオンラインインタビューを行いました。さらに見学やインタビューを通して学んだことを、ICT機器を活用して新聞記事にまとめています。これらの活動から「尋ねる力・聴き取る力・書く力」を実践的に身に付けています。

今年度は多くの新聞社、放送局に表現探究コースの取組を取り上げていただき、本校Webページにも日々取組を公開しております。今後は、1年間の学習内容をまとめたプレゼンテーションの実施や、SDGsに関連した今日的課題に関する探究学習、韻文や英語に関連したプレゼンテーション、ディスカッションなどを行う予定です。表現探究コース1期生のさらなる深い学びに期待しています。

オンラインインタビュー

記事作成

記者トレ授業

家庭教育研修

家庭教育委員長　日笠　律子

紅葉が美しい季節である十一月二十七日。家庭教育研修を行う予定をしておりました。しかし、直前になり新型コロナウイルス感染者数が日々増えた為、本年度の研修会は中止とさせて頂きました。

例年でしたら夏休み中に行先やプランの相談を始めるのですが、今年は行ってもいいのか。行けるのだろうか。と、悩む日々でした。何もかも中止になる中、何とか研修会が行えないか、との思いで活動を始めたのが九月の終わり頃でした。最近の行先は、淡路島・神戸・和歌山でしたので、今回は近江八幡へ。サンドブラスト体験学習をし、昼食をいただき、その後ラコリーナに寄っていただくプランに決定。参加者みんなで楽しみにしていたのに、実施することができずとても残念に思います。

委員長として、プランを決めたり食事の内容を決めたりすることは、とても楽しく、良い経験をさせて頂きました。

研修会は、校長先生をはじめ保護者の皆さんが参加し、子どもの部活動のこと、進路のこと、学校での様子など、色んな方と話しが出来る場であります。バスの中では、自己紹介やビンゴゲームをして参加者全員で盛り上がります。親睦を深め私たち保護者も楽しい時間を過ごす会となっています。来年も企画をして案内させていただきます。ぜひ、多くの方のご参加をお待ちしています。

来年度に向けて

保健体育委員長　脇阪　佳工

保健体育委員会は本年度より例年の体育大会への行事参加だけでなく、本部役員が中心となって行っていた文化祭でのバザー出店を皆様と一緒にお仕事を楽しみながら協力させて頂く予定でした。毎年バザーの収入で子ども達の学校のいろいろな設備を購入させて頂いておりました。新型コロナウイルスの感染予防拡大に伴い本年は、育友会として協力できなかったことや、体育大会も中止になってしまい悔やまれます。しかし、文化祭は鑑賞会のみではありましたが、3密を避け分散にて開催して頂けたことは各行事の中止が相次ぐ中で子ども達は、とても楽しい思い出を作って頂けたと思います。

新しい生活様式の中で来年度はどの様な方法であれば安全を確保し、各行事の実施を行っていくことが可能なのかなどを考えていきたいです。

プレゼン

進学か就職か 学生の人生も左右するコロナ

進路対策委員長　岡田　由香

本来なら大学見学会の企画を担当させていただくはずだったのですが、コロナ禍の中であるため今年の大学見学会はやむを得ず中止となりました。

我が子が3年生なので、昨年までとはまた違った思いで実施を楽しみにしていたので、非常に残念な気持ちでいっぱいです。

昨年度進学した学生たちは、コロナの影響によりオンライン授業が中心となり、キャンパスに通えないまま退学を選ぶことも多くなっていると聞きます。今年度は、進学から就職に変更する学生も多いとテレビ等で見ることが多いですが、就職に変更しても高校卒業での就職の難しさも言われています。

同じ高校3年生の子どもを持つ親としてとても心苦しい話題が多く、一日でも早く新型コロナウイルスが終息することを願うばかりです。

SNSを使うということ

人権教育委員長　紙中　昭

例年であれば夏休みに行われる人権研修会や校内での講師の方を招いての講演会が開催されていたのですが、本年度はコロナウィルスの影響で活動が全くできませんでした。

この状態が早く収束することを願います。

SNSがよくつかわれる昨今、名前も顔もわからないからと軽い気持ちで書き込まれた悪意のある一言が知らぬ間に他人を傷つけてしまうことがよくあります。最近では某番組に起こったSNSでの誹謗中傷による自殺など取り上げられました。SNSでは相手の顔が見えないということで、この言葉を使うことによって誰かが傷つくのではないかという考えなく書き込みをしてしまう恐ろしさがあるのではないかと思います。

わざとある人をイジメようと心無い言葉を使い攻撃するという事よりも、そういう考えなしに書き込み等をしてしまうという自覚症状のない事のほうが恐ろしいのではないでしょうか。自分は関わっていないと思い生活を送っている事ほど怖いものはないと思います。一度書き込み送信を行う前にはよく考えて欲しいです。少しの気遣いで最悪の事態を防げるのではないでしょうか。

SNSなどはこの情報社会において欠かせないアイテムの一つであることは間違いないでしょう。上手く使えばとても便利で素晴らしいのもですが半面この様な事も起こりうる恐ろしいものでもあるという事を理解して付き合っていかなければないのでしょうか。

乗車マナー向上運動（VPA活動）に参加して

生徒指導委員長　樋口　信隆

VPA（ボランタリー・パトロール・アクティビティー）活動は、奈良県高等学校PTA協議会、奈良県高等学校生徒指導研究協議会が主催し、県内一斉で、駅構内、電車等の乗降時のマナー向上を趣旨として、青少年の健全育成を目指したものです。

11月6日（金）、今年も生徒指導部の先生、教員、生徒指導委員、及び県警察等が協力し、生徒の利用が多い、近鉄五位堂駅～大和八木駅とJR香芝駅～王寺駅間を先生と委員それぞれが各路線に分かれて巡視を行いました。

乗車する生徒達が、活動腕章の私を見て、少し照れくさそうに会釈をし、マナーよく乗車する姿や、巡視中の先生と楽しそうに会話したりする姿など、普段はあまり見ることが出来ない生徒達の姿を見ることができ、とても有意義な時間でした。

乗車中の生徒達は、スマホを見たり、音楽を聴いたり、そして参考書を見て、他の利用者に迷惑をかけることなく、マナーのいい乗車でした。何気ない行動ですが、これも先生方のご指導の賜物であり、生徒達が実践している姿を見て少し誇らしく思えました。

最後に、生徒達には乗車を通じて駅員さんを初め、様々な方々が何らかの形で関わっていることを認識してもらい、感謝の気持ちを忘れずに、大人へと成長して欲しいと思います。

今回のVPA活動に参加していただいた皆さま、本当にありがとうございました。今後も、学校活動や育友会活動にご協力のほど、よろしくお願い致します。

編集後記

今年度は「コロナ」という新種のウィルスに世界中が怯える新学期となりました。

子ども達の生活も緊急事態宣言により、大きく変化しそれに対応する事に大変困惑したと思います。

新学期、入学式以来、日々の部活動、家庭学習等で学校へも通えず、大会や行事などが中止となり、友達とも逢えず悲しい思いをされているお子さんの姿を目にし、保護者の皆様も心配された事と思います。

しかしながら、オンライン授業導入や先生方の校内での感染予防対策、ご家庭でのお子様へのご指導の協力を頂いたおかげで、学校生活を取り戻し文化鑑賞会、校外学習等新しい生活様式ではありますが開催する事が出来ました。

今後も感染予防対策を強化しながら、1日も早く、コロナが収束し子ども達が、はつらつと行事に取り組んでいる様子が、見られる事を願いたいと思います。

この度は、編集にご協力頂きました先生方、役員の皆様のおかげで第34号「こまどり」を無事に発行出来ました。

ありがとうございました。